

コラム

バーチャルな中東だが――

客員研究員 新井 光雄\*

バーチャルリアリティという言葉がはやったことがある。仮想現実と日本語では訳していたと記憶する。ITなどの普及で機械的な情報に現実を感じていくということへの警告的な意味を含んでいたのだろう。なるほどと思った。テレビなどの映像と現実を錯覚することはありうるか、と思えた。しかし、よく考えてみれば、広義にとると自分の感覚の相当部分がバーチャルであることに気づく。メディアの全てがそうとも言えるのかもしれない。ちょっと極端な例となるが菅首相のことを実はテレビ、新聞などのほかでは個人的には全く知らない。ある意味で仮想の存在だ。新聞、テレビのなかの存在である。

こんなことを考えながら、地図を見ている。中東・北アフリカの地図。新聞に「政変の起きた国、デモ・反政府集会の発生国」と色分けして載っていたのだ。政変はチュニジアとエジプト。デモなどとなるとモーリタニア、モロッコ、アルジェリア、リビア、ヨルダン、サウジアラビア、イエメン、イラク、バーレーン、クウェート、オマーン、ジブチ、イランなどとなる。もはやただ事ではない。しかし、実際に知った国となるとこのなかにどれほどあるのだろうか。足を踏み入れたことのある国ということであれば、エジプト、モロッコ、アルジェリア、サウジアラビア、バーレーン、イランということになる。が、実はモロッコはスペインからの日帰り旅行であり、行ったことは行ったのだが、行ったとは言えないのかもしれない。もう三十年近く前に滞欧中に休暇でスペインのマラガに滞在した折、フェリーで日帰りできると知って、行ってみた。タンジールという町。カスバを見学した記憶がある程度で、多少感動したのはむしろアフリカ大陸を初めて踏んだということと、ジブラルタル海峡を渡ったということだった。エジプトは二度。一度は財界ミッションの同行取材。ちょうどこの時にアブダビのLNG基地完成の取材があり、ついでに、ということでカイロに回り、帰国途中でイランの日本プロジェクト・バンドルホメイニ石化基地を取材した。二度目はツアー旅行。アルジェリアはOPEC総会取材。総会後にカスバ見学はむろんだが、サハラ砂漠を車で南下、確かハシロンメルとかいうガス基地を見学した。途中、走行中の車のタイヤが破裂という事故に遭遇、死んだと思ったが、エアレスタイヤで無事。肝をつぶす経験をした。バーレーンはレバノンからの帰りに金融市場取材などして寄ったことがあり、街中の小さな油田を見た記憶がある。それよりもサウジアラビアにはあのコースウェイを利用したから、その時の印象の方が強いかもしれない。サウジアラビアは何を置いてもサウジアラムコの基地取材が強烈な記憶に残っている。

で、これだけの体験で何が言えるのか。バーチャルではない部分があるだろうと思うのだが、案外ない。強いてこれだけは、ということ言えば、「緊張感」がこれらの国はどこへ行ってもあったということだろうか。分らない部分が多い国といってもいい。例えばこんなことがあった。ビザをある国から貰ったのだが、その時に注意書きがあり、麻薬に関しては極刑がありうること

\* 地球産業文化研究所理事 元読売新聞編集委員

が示唆されていた。物知りがいて、日本でよく飲まれる薬が麻薬の成分に似ていて、税関でトラブルがあると注意されて、あわてて違う薬にしたことを覚えている。少し極端なケースかもしれないが、ある意味不思議な無気味さを感じるころがあるということだ。

もちろん短期滞在で分ることなどたかが知れている。良く知るどころか偏見を持ってしまうということもあるだろう。小さな体験が体験したことだけで拡大されるということは旅に付き纏う。要注意なのだが、されど体験は体験で、しないよりはした方がやはりいいのだろうと思う。ほんの少しだがバーチャルではないところがあるというだけなのだが。

そこで敢えて象徴をあげるとすれば、サウジアラビアがある。一次危機以来、新聞記者として多分、千回以上はこのサウジアラビアという国の名前を書いてきたに違いない。それが1999年末にアラビア石油の利権交渉にからむ取材で訪れるまで、行ったことがなかったのだ。まさにバーチャルで記事を書いたともいえる。アラビア石油のカフジ油田のリグに乗った時は、正直、興奮した。もっともその体験でいい記事が書けたのか、と問われるとそうと回答はできない。何かが変わったといたいところだが、明確にはいえないものだ。

それではムダかと言えばそうでもない。同じニュースを受け取るにしても関心の度合いが違ってくる。それで十分だろう。世論調査をしたわけではないが、今問題になっている国はエジプト、モロッコあたりを除くと日本人にとってはなかなか行きがたい国、バーチャルにしか知りえない部分が多いはずだ。

多分、文化的な関係が薄いという事情が大きな背景にあるためでもあるかと思うが、付け足しを承知で言えば、日本の生命線である石油は多くをこの地域に依存している。こんな機会にバーチャルでもいいから多少にエネルギーに関する知識を広げるいい機会なのだろうとは思う。

お問い合わせ : [report@tky.ieej.or.jp](mailto:report@tky.ieej.or.jp)